

生物多様性かつしか戦略



全ての“生きもの”の命のつながりのために



概要版



葛飾区

生物多様性とは

昔からその土地にいた様々な生きものが、多様な環境の中でお互いにかかわりあって生きていることを「生物多様性」と言います。生物多様性には、「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」の3つのレベルがあります。これら生物多様性を保全するためには、3つのレベルで保全していくことが重要です。また、私たち人間も生きものの一員であり、人間も含めて全ての生きものがつながりあって生きていくことが大切です。

生物多様性の3つのレベル

①生態系の多様性

河川、池沼、樹林、草地など様々なタイプの自然があることです。



②種の多様性

動植物から細菌などの微生物にいたるまで、様々な種類の生きものが生息・生育している状況のことです。



③遺伝子の多様性

同じ種でも遺伝子の違いによって、個体の形や模様などの違いがあり、様々な個性があることです。例えば、アサリの貝殻の模様が千差万別であるなどが挙げられます。



生物多様性から受けているたくさんの恵み

①命を支える基盤

(酸素の供給、水の循環、土壌の形成)



水元公園の水辺と樹林

②必需品の供給

(食べ物、繊維、木材、医薬品)



葛飾元気野菜

③豊かな文化の根源

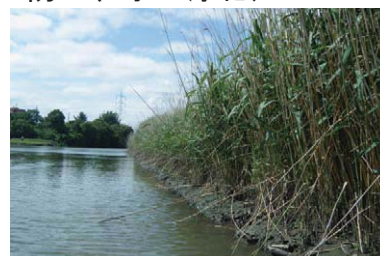
(地域ごとの食文化、工芸、芸能)



江戸刷毛

④安全安心の保障

(災害の防止、水の浄化)



大場川のヨシ原

生きものたちの「今」

(1) 生きもの調査の実施

葛飾区では、区内に生息・生育する生きものの種類や自然環境の実態を把握するために、平成 22、23 年度に「生物多様性保全状況調査」を実施しました。調査の結果、約 460 科 2,000 種の生きものを確認しました。そのうち、環境省や東京都のレッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物種のリスト）に該当する種は 137 種でした。

(2) 葛飾区でも見られる希少な生きもの

水元小合溜の池沼には、東京都の天然記念物に指定されているオニバスが生育しています。また、葛飾区の地域特性である河川や池沼などの水辺環境には、カワセミやオオヨシキリ、トウキョウダルマガエル、チョウトンボ、メダカなど様々な希少な生きものが生息しています。

《葛飾区でも見られる希少な生きもの》



オニバス 写真撮影：市原みずよ

トウキョウダルマガエル 写真撮影：田中利勝

生きものたちの「昔」

文献^注調査などにより以下の生きものたちが生息・生育していたことがわかりました。

◇昭和 20 年代ごろまではヒシクイやマガンなどの大型の水鳥が見られました。

◇戦前までは多くのホタルが生息していましたが、戦後まもなく見られなくなりました。

◇昭和 40 年代ごろまでは、アカヒレタビラなどのタナゴ類、オオセスジイトトンボなどのトンボ類、サンショウモなどの水草が見られました。

《葛飾区で今は見られなくなった生きもの》



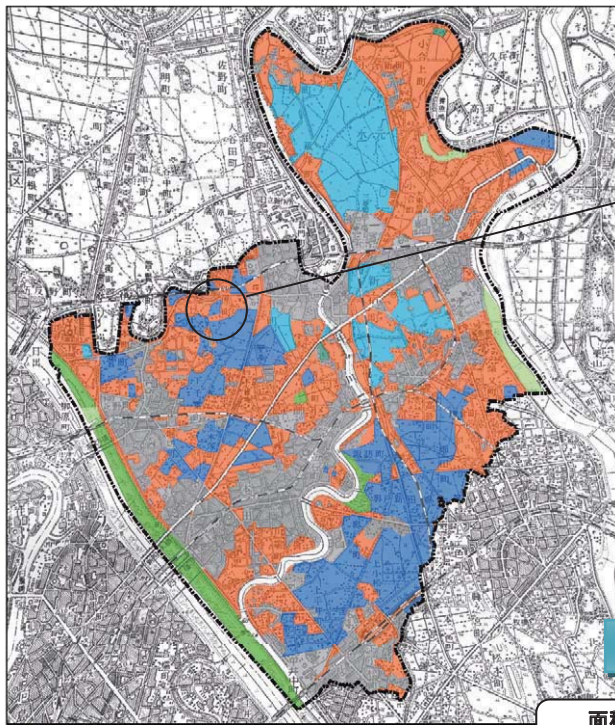
写真撮影：田中利勝

注：「増補 葛飾区史」（昭和 60 年，葛飾区）

生きものたちの生息・生育場所のうつり変わり

昭和30年と平成18年の土地利用図を比較してみると、昭和30年には鉄道沿いや河川沿いにあった市街地（住宅や工場）が、平成18年には全域に広がったことが分かります。水田はなくなり、畑は区の北東部に位置する水元地区などに残っていますが、大きく減少しました。

《土地利用の変化》



凡例

- 乾田
- 水田
- 畑
- 草地
- 荒地
- 針葉樹林
- 市街地等

土地利用（昭和30年）

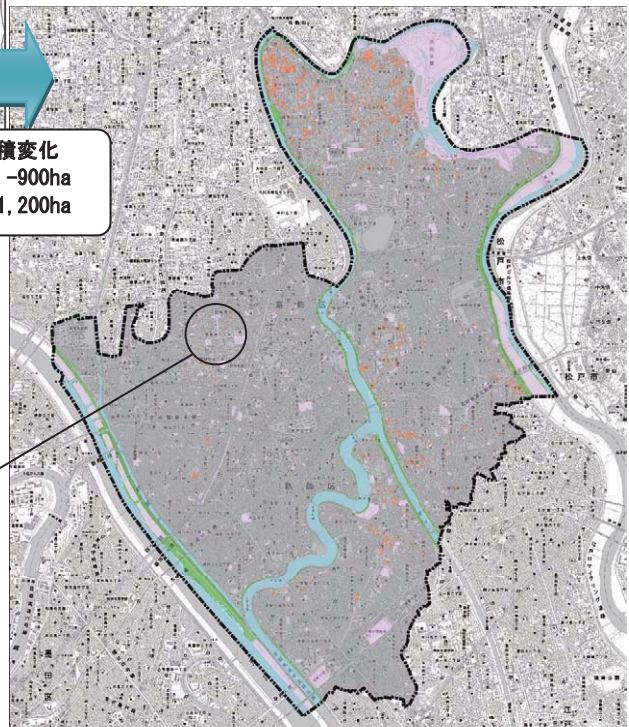
注：乾田：冬は水が無く歩ける状態の水田
水田：年中水がある状態の水田



住宅が密集する市街地（西亀有・平成24年）



田植え（西亀有・昭和34年）
写真撮影：山口敏郎



面積変化
田：-900ha
畑：-1,200ha

凡例

- 公園
- 畑
- 樹園地
- 牧草放牧地
- 水面・河川・水路
- 原野
- 樹林
- 市街地等

出典：「平成18年度土地利用現況」（平成18年，東京都）

土地利用（平成18年）

国土地理院発行の5万分の1地形図「東京東北部」、
数値地図25000（地図画像）「草加」「松戸」
「東京首部」「船橋」を使用

より豊かな区民生活を実現するために

私たちは、この 50 年間で生きものが豊かであった自然を変化させてしまいました。今後の 50 年間にかけて生きものとともに暮らせるよう生物多様性を保全し、また生態系が再生・創出される社会を次世代につないでいかなければなりません。

葛飾区においては、江戸川などの葛飾区を囲む豊かな水辺環境を保全し、その生きものたちを市街地にも呼び込むことで区全体の生物多様性を高め、市街地でも生物多様性の豊かさをより多く感じられるようにします。

そのために、区民、地域団体、事業者、区など多様な主体が連携・協働して長期的・計画的に取り組んでいくため「生物多様性かつしか戦略」（以下「かつしか戦略」という。）を策定しました。

かつしか戦略の目標と望ましいかつしかの姿

～戦略の目標～ 「みんなで守り育てた命のつながりを未来へつなぐまち」

《50 年後の望ましい葛飾区の将来像》

区民や地域団体などによる指標種のモニタリング調査が行われ、その成果が施策に反映されています。

学校教育の中でも環境学習への取組が盛んになり、子どもたちが自然に親しみを感じています。

自然“感”察指導員の養成や自然環境学習出前講座などにより、生物多様性の保全を担う人材が育成されています。

学校ではビオトープやバケツ、プランターでのミニ水田が設置されています。

緑のカーテンや太陽光発電、地産地消などによる環境負荷の少ない生活が行われています。

体験・学習用の水田環境が作りだされ、区民に環境学習などの場として活用され、生きものの豊かな生息・生育環境となっています。

各家庭の庭やベランダに草花がたくさん植えられ、野菜や果物が育てられています。

エコロジカル・ネットワークにより緑のつながりが形成され、市街地のいたるところで生きものが行き来しています。

命のつながりを「未来」へつなぐための5つの基本戦略

かつしか戦略の目標を達成するために、葛飾区において取り組む施策の方向性を「5つの基本戦略」としてまとめました。

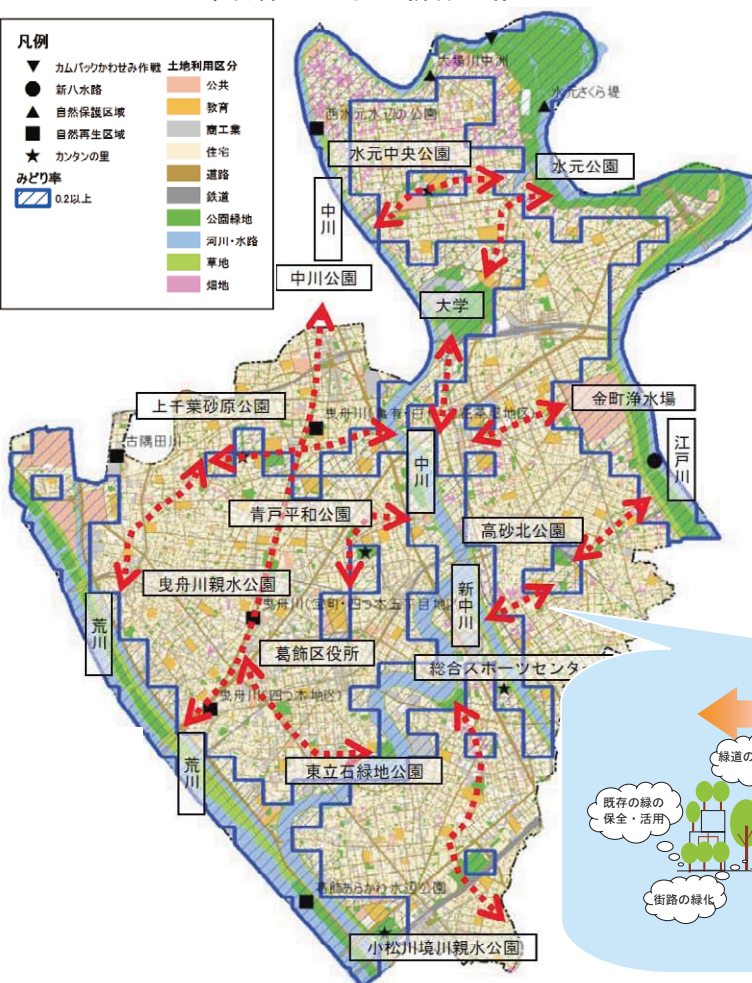
基本戦略1 生物多様性を守り、生態系をよみがえらせ、つくり出す

施策の方向性

- ・ 水辺や緑地などの既存の生態系を保全・再生する
- ・ 水田生態系を再生する
- ・ 緑の創出などにより市街地の生物多様性の向上を図る
- ・ 公園緑地などの点在する緑の保全や整備により、エコロジカル・ネットワークを形成する

- 例えば…
- 湿生植物帯を整備
 - 水辺をつなぐ散策路の整備
 - 農地の保全や社寺林（神社や寺を取り囲むように設置・維持されている森林のこと）などの保全・管理
 - バケツ、プランターなどのミニ水田設置の推進
 - 屋上、壁面、駐車場などの緑化を推進
 - 環境保全型水田耕作の推進

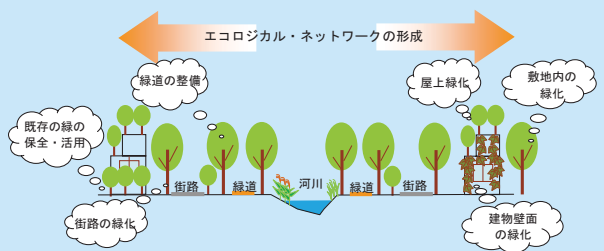
凡例		
▼	カムバツかわせみ作戦	土地利用区分
●	新八水路	公共
▲	自然保護区域	教育
■	自然再生区域	商工業
★	カンタンな里	住宅
みどり率		道路
0.2以上		鉄道
		公園緑地
		河川・水路
		草地
		畑地



◀...▶ : 将来的にエコロジカル・ネットワークの形成が想定される場所

みどり率：樹林等の緑に加えて、みどりの様々な機能を考慮し、公園や水面などのオープンスペースを加えた面積が、対象とする地域面積に占める割合

エコロジカル・ネットワーク：生きものが必要とする様々な生息・生育場所（ねぐら、繁殖地、餌場など）を生きものの移動経路によりつなぎ合わせたもの



基本戦略2 人と様々な生きものが共に生きる

施策の方向性

- ・希少種などの生きものの生息・生育環境を整備し、保護と管理を行う
- ・特定外来生物・要注意外来生物の認知度を上げ、防除する

- 例えば…
- ホタルやメダカなどが生息できる環境づくり
 - 希少な生きものの生息・生育場所の保全
 - 特定外来生物・要注意外来生物の駆除を目的とするイベントの実施
 - 特定外来生物・要注意外来生物の駆除リストやマニュアルの作成

基本戦略3 生物多様性の情報を集め、共有し、活かす

施策の方向性

- ・モニタリング調査などにより情報・データを広く収集し、保全や環境学習に活用する
- ・生物多様性に関する情報・データを広く発信する

- 例えば…
- 区民、学校、地域団体、事業者などによる指標種のモニタリング調査・情報集約
 - インターネット上でのGISなどを活用した生きものの生息・生育情報などの公開
 - 環境教育用副読本である「ECO LIFE 葛飾」の活用と情報の発信

基本戦略4 命のつながりがいつまでも続く地域社会をつくる

施策の方向性

- ・省エネルギー対策や地産地消、自然を活かした環境負荷の少ない生活を推進する
- ・地域の事業活動において生物多様性に配慮した活動を促進する
- ・区の施設などで生物多様性に貢献する取組を推進する

- 例えば…
- 区内で生産された野菜や有機野菜の購入、販売の促進
 - 落ち葉を堆肥にするなど、区内での資源循環の促進
 - 太陽光発電などの再生可能エネルギーの利用の推進
 - 生物多様性アドバイザーの活用

基本戦略5 守り、育て、活かす人をつくる

施策の方向性

- ・自然環境を保全し向上させる担い手を育成する
- ・区民や地域団体、事業者による環境活動を区が支援する
- ・区民や地域団体、事業者が連携・協働して生物多様性に貢献するための環境づくりを行う

- 例えば…
- かつしかっこ探検隊や親子自然観察会などの環境学習の推進
 - 自然・環境レポーターへの参加など区民が活動できる場の充実
 - ビオトープを活用した体験学習の推進
 - 水田体験学習の推進
 - 自然環境分野の横断組織の立ち上げ

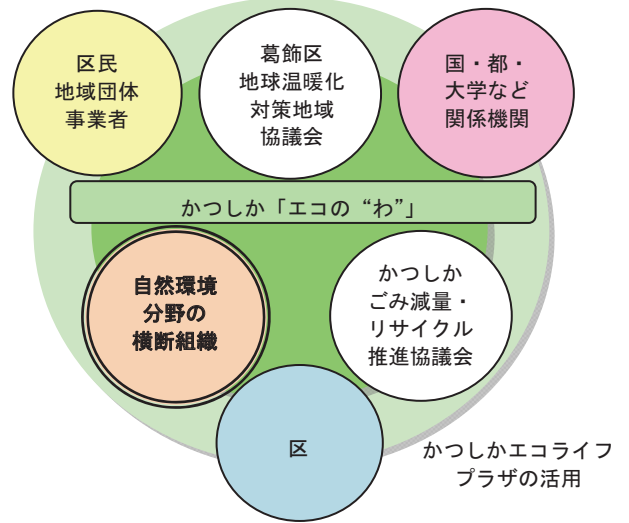
かつしか戦略実行のしくみ

区内で活動している区民、地域団体などとともに、区内の生物多様性の保全、生態系の再生・創出に向けた情報交換会・学習会の開催、機関誌の発刊、事業またはイベントの企画・運営などを協働で推進します。

葛飾区環境基本計画（第2次）で掲げられている各協議会・団体などの「エコの“わ”」の形成を図ることによって、区民、地域団体、事業者、区などの連携を強化します。

様々な部署が連携して取り組む必要があるため、全庁的な取組を推進します。

《かつしか「エコの“わ”」》

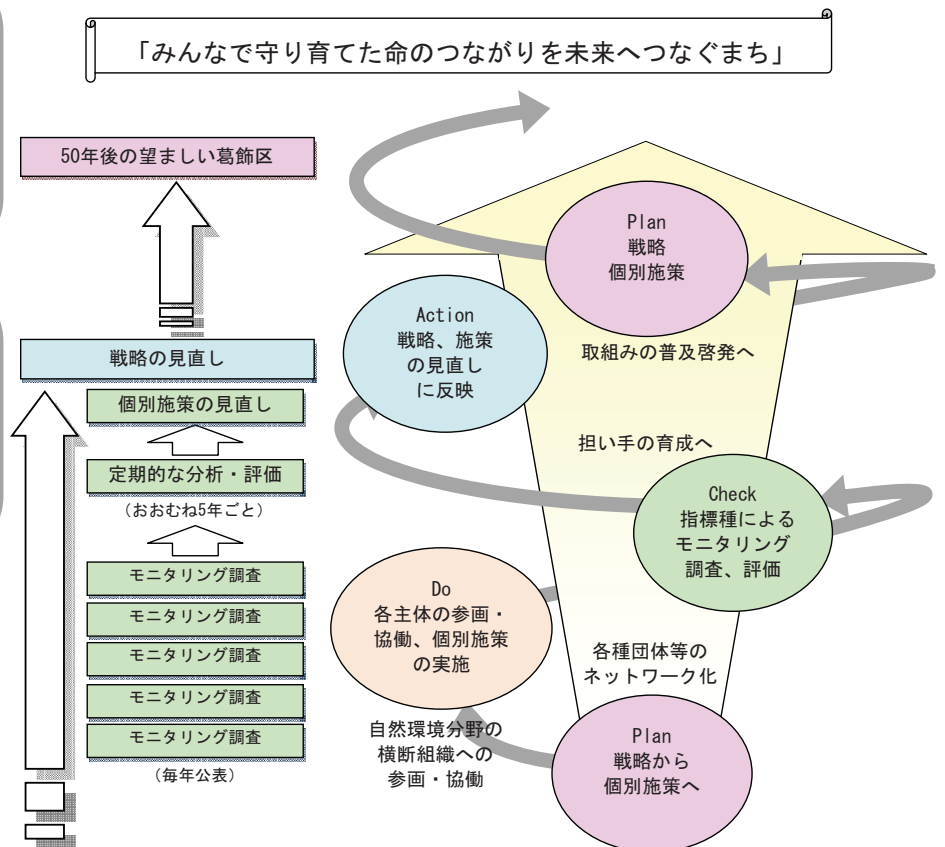


実行管理のしくみ

施策の取組結果や進捗状況について、指標種によるモニタリング調査を行い毎年公表していくとともに、定期的に分析・評価を行います。

生物多様性を取り巻く状況の変化などに対応するため、次期環境基本計画の改定などのタイミングにあわせ、必要に応じて戦略の見直しを行います。

《指標種を用いた個別施策の達成状況の評価》



葛飾区環境部環境課

〒124-8555 葛飾区立石 5-13-1

Tel: 03-5654-8237

2012（平成24）年11月発行

1932～2012

かつしか 区制施行 80周年

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。